

- ② 施策評価の結果まとまる
- ③ 市民参加のまちづくり
- ④-⑤ **特集** みんなで守る安心・安全の輪
～セーフコミュニティ活動開始10年～
- ⑥-⑧ 街の話題/コラム/お知らせ



歩み続けて10年

安心・安全なまちへ

中央はSCのロゴマーク。認証団体が活動の普及などに活用する

SC活動の歩み

30年	27年	24年	22年	21年	20年(平成)
11月 第9回アジア地域SC会議を開催	11月 陸合東中がISS認証を取得	10月 SC推進条例を施行	11月 清水小がインターナショナルISS認証を取得	4月 総合計画に取り組みを位置付け	11月 5月 総決起大会を開催 取り組みを宣言

「誰もがいつまでも健康で幸せに暮らせるまちをつくること」と、住民や行政が一体となって安心・安全なまちづくりを目指すのが「セーフコミュニティ(SC)」の取り組みです。市では平成20年1月から、市民の皆さんと協働で、事故やけがを防ぐための活動を進めてきました。

たくさんの方が各地で防犯パトロールやあいさつ運動、環境美化活動、健康づくり体操などを積極的に展開した結果、22年11月、国内で3番目にWHO(世界保健機関)が推奨する国際認証を取得。その後も活動が広がり、5年後には再認証も得ました。

来年11月には、アジア各国からSCに取り組みむ皆さんが本市に集まり、先進事例や研究成果を発表する国際会議を開きます。共に見識を深め、世界に誇れる安心・安全なまちを目指し、新たな一歩を踏み出しましょう。

《4.5面に関連記事あり》
 ④セーフコミュニティくらし安全課
 ☎225-28605

Zoom Up

30施策のうち19が「順調」

施策評価の結果まとまる

将来のまちの方向性を定めた総合計画「あつぎ元気プラン」の進捗状況を検証するため、毎年実施している施策評価の結果がまとまりました。評価の結果は今後、市民の皆さんが満足できる、より良いまちづくりに生かしていきます。

施策評価は、市の施策や事業に対する市民の皆さんの満足度を調査した「市民満足度調査」の結果をはじめ、ごみの資源化率やがん検診の受診率といった各施策の達成率を点数化し、進捗状況を検証するものです。本年度は、30施策のうち19の施策が「順調」と評価されました。

高齢者福祉の満足度が上昇

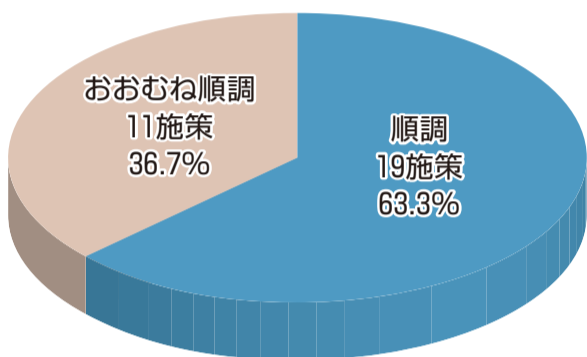
評価の中でも特徴的だったのは「高齢者が生きがいを感じる社会の実現」です。



満足度が上昇した「高齢者が生きがいを感じる社会の実現」の取り組み。地域包括支援センターへの相談も増加している

施策評価の結果

「あつぎ元気プラン」にある30施策について、市民満足度調査の結果や施策の達成率を点数化して「順調」「おおむね順調」「やや遅れ」「遅延」の4段階に評価しました。



※やや遅れ、遅延と評価された施策はなし

《評価対象》

- ①安心政策…子育て、福祉、保健・医療、安心・安全などに関する9施策
- ②成長政策…学校・社会教育、文化、スポーツ振興などに関する5施策
- ③共生政策…自然環境、温暖化防止、ごみ対策などに関する5施策
- ④快適政策…中心市街地、企業・商業の活性化、農業、産業、観光などに関する7施策
- ⑤信頼政策…シティプロモーション、市民参加、市民協働、行財政改革などに関する4施策

求められる市街地活性化

一方で、昨年度に比べて9の施策が「順

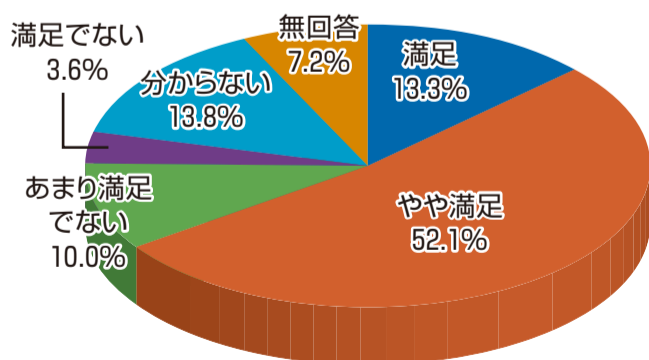
調」から「おおむね順調」へと評価を下げました。特に市民満足度調査では「活力ある中心市街地の実現」や「快適生活空間の実現」は、満足していない割合が高くなっています。公募市民や学識経験者らで組織する総合計画審議会からは「全体的には順調だが、市民満足度など達成率が低い施策もある。危機感を持って、さらなる施策の推進が必要」との意見がありました。

この評価を受け、市では、結果を十分に分析した上で、市民ニーズを的確に把握し、市民満足度の向上につながる効果的

市民満足度調査

市が進める施策に対する市民の皆さんの満足度を調べる「市民満足度調査」の結果がまとまりました。調査結果は「あつぎ元気プラン」の進行管理などに活用します。

《市の取り組み全般に対する総合満足度》



《期間》平成29年6月6日～26日
 《対象》住民基本台帳を基に無作為に抽出した市内在住の18歳以上の男女4000人(うち438人は継続調査者)
 《調査項目》全37項目①子育て、福祉、保健・医療(5問)②市民生活、安心・安全、防災(7問)、③教育、生涯学習、文化、スポーツ(6問)、④環境、河川(6問)、⑤都市、道路・交通(4問)、⑥産業、労働(4問)、⑦行政経営(5問)

上位3項目

- ①資源とごみの分別の取り組み
- ②環境美化の推進
- ③地域医療環境の充実

下位3項目

- ①土地利用による魅力的な拠点づくり
- ②多文化共生社会・平和な社会の実現
- ③就労・雇用環境の改善

将来都市像の実現に向けて

市では、現在、「あつぎ元気プラン」の総仕上げとなる平成30年度から32年度までを計画期間とする第4期実施計画の策定を進めています。市の将来都市像「元気あふれる創造性豊かな協働・交流都市あつぎ」の実現に向けて、将来を見据えた

長期的視点や市民ニーズを踏まえたまちづくりを積極的に進めていきます。

企画政策課 ☎225-2455



介護予防も地域包括ケア社会の実現に向けた重要な取り組みの一つ

市民目線で事業を点検・評価

市民参加型外部評価を実施

市政の透明性確保と、市民サービス向上のため、7月に市民参加型の外部評価を実施。「現行どおり」「要改善」「廃止」の3つの区分で評価しました。評価の結果全ての事業が「要改善」。評価に基づき、実施内容などの改善を進めます。



当日はインターネット中継を実施

対象事業

- 学力ステップアップ支援員派遣事業費
- 地域づくり推進事業補助金
- 児童・生徒登下校等安全推進事業費
- 放課後子ども教室推進事業費

- 避難所運営委員会運営費交付金
- 若者・女性等雇用拡大事業費
- 商店会連合会振興費補助金
- シルバー人材センター運営費補助金

行政経営課 ☎225-2160



あなたの意見で
あつぎが変わる

こんな声を反映しました

「金田老人憩の家・児童館複合施設の設置に関する基本方針」



ハイハイできるぐらいの子どもが、安心して遊べる部屋を設置してほしい

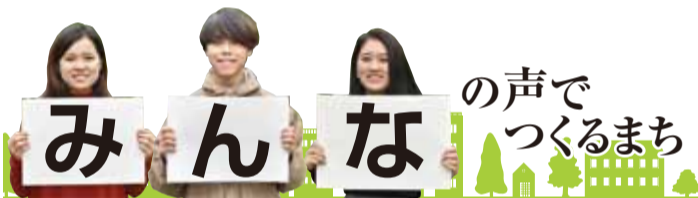
児童館に乳幼児が利用できるキッズルームを設置することを、基本方針に盛り込みました

「人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略」

人口密度の検証や市内の交通量調査など、人が生活しやすい空間かどうか、人口問題を考える上で必要ではないか



人口密度と公共交通に関する分析も必要であり、公共交通路線の徒歩圏に住む人口の状況を検証します



パブリックコメント

■市営自転車等駐車場条例の一部改正

☎交通安全課 ☎225-2760・☎221-0260・☎3400@city.atsugi.kanagawa.jp

■建築基準条例の一部改正

☎建築指導課 ☎225-2432・☎223-0166・☎5700@city.atsugi.kanagawa.jp

■市個人情報保護条例及び市情報公開条例の一部改正

☎行政総務課 ☎225-2287・☎223-4058・☎0650@city.atsugi.kanagawa.jp

いずれも閲覧期間は11月15日～12月15日。閲覧場所は各課窓口、☎、市政情報コーナー、公民館、本厚木・愛甲石田駅連絡所、保健福祉センター、中央図書館、あつぎ市民交流プラザ。応募資格は、市内在住在勤在学の方または市内で活動する個人・法人・団体。応募方法は、閲覧場所にある用紙を備え付けの「わたしの提案」箱に投函するか、直接または郵送、ファクス、Eメールで問い合わせ先へ。

都市計画に関する説明会

■南部産業拠点(酒井地区)の都市計画素案に関する説明会

都市計画法に基づく南部産業拠点(酒井地区)の区域区分などに関する都市計画素案の説明会を開催します。

《日時》11月28日、19時～20時
《会場》相川公民館

■地区計画の一部変更に関する都市計画説明会

都市計画法第8条(地域地区)の田園住居地域追加に伴い、地区計画の一部改正の都市計画変更について説明会を開催します。

《日時》11月13日、19時～20時
《会場》市役所第二庁舎

いずれも申し込みは当日直接会場へ。

☎都市計画課 ☎225-2401

Zoom Up

あなたの声をまちづくりに

市民参加のまちづくり

市民の皆さんの声を取り入れてまちづくりを進めるには、市の情報を公開し、お互いに意見を共有する必要があります。市では、条例の制定や重要な計画などを策定する際、市民ニーズを的確に捉えたまちづくりに取り組んでいます。

より良いまちづくりのためには、市民の皆さんの声を広く聞き、市政に生かすことが欠かせません。市では、平成24年に「市民参加条例」を制定し、市民の皆さんが主体的にまちづくりに参加する仕組みを整えています。

条例で仕組みを整備

条例の制定や計画の策定など、生活やまちづくりに大きな影響を及ぼす行為には、市民の皆さんの意見を踏まえた検討が必要です。市民参加条例では、どのような行為に対し、どのような手続きで市民の皆さんの声を取り入れるか、手続きの方法や流れを定めています。

手続きの対象や方法

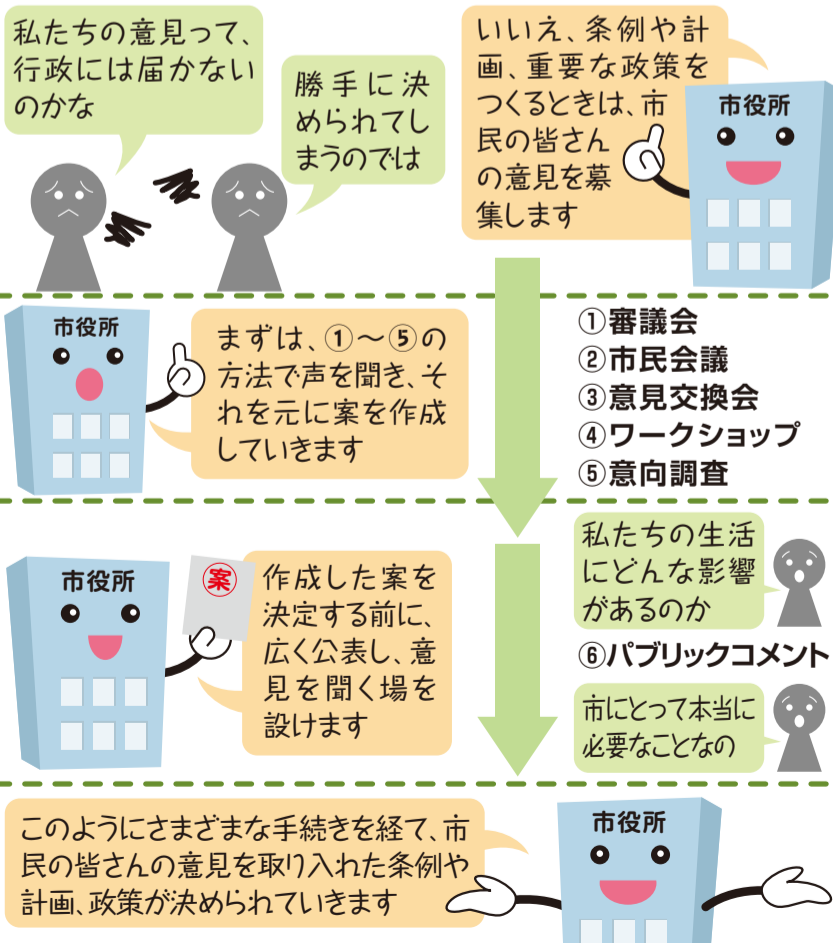
市民参加条例に規定され、手続きの対象となる行為には、主に「条例などの制定、改正または廃止」「計画の策定、改定または廃止」「その他重要な政策などの策定」の三つです。検討段階から実施に至るまで、全ての行程や手続きの方法などを広報あつぎや市ホームページで公表します。

市民の皆さんからの意見は、六つの方法(下欄参照)で募集します。①～⑤は、条例や計画案の検討段階で、⑥は案の最終決定に向けて、意見や要望を募ります。手続きの実施状況は、学識経験者や公募の市民などで構成する自治基本条例推進委員会でご覧いただけます。平成28年度には37件の手続きを実施し、2千件を超える声が寄せられました。参加者には、「二つの条例を制定するの」に3回も市民の声を聞く機会を取り入れていて驚いた」「自分もまちづくりに携わっていると感じられた」などと、市政への関心の高まりを実感していただいています。

市民参加のまちづくりを

多種多様な意見をまちづくりに反映するためには、市民の皆さんに市政に関心を持っていただくことが重要です。自治基本条例推進委員会の牧瀬稔委員長(43)は「幅広い年代から意見を聞くことで、皆さんが持つ豊富な知識や経験がまちづくりに生かされる。市民が自発的に市政に関わることで、市のさらなる発展につながっていく」と、重要性を訴えます。

あなたの声がまちづくりに届くまで…



☎市民協進推進課 ☎2512141

皆さんの率直な意見や思いが、私たちの暮らしをより良いものへと変えていきます。市では、まちのさらなる発展を目指して、市民の皆さんの声を取り入れたまちづくりを進めていきます。

セーフコミュニティ
特集
活動開始10年

みんなを守る

安心・安全の輪

社会全体で安心・安全に取り組みまちや地域を「セーフコミュニティ(SOC)」とISPS-WHO(世界保健機関)が推奨しています。市では平成20年から市民の皆さんと共に活動を始め、11度の国際認証を取得しています。取り組み開始から10年が経つ今も、市内各地で安心・安全への意識が広がりをを見せています。

◎セーフコミュニティへの安全課 ☎225-280915

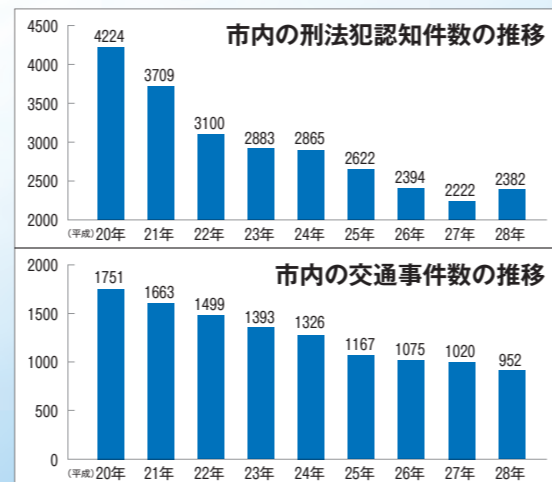
交通事故や犯罪など、日常には多くの危険が潜んでいます。SCの活動は、こうした事故や事件を地域や行政、警察など、社会全体で未然に防いでいくとする取り組みです。かつて本厚木駅周辺を中心に事件や事故、自転車の放置、落書きなどが多く見られた本市では、「怖くて、汚いまち」という印象(体感治安)を改善しようとSCの取り組みを始めました。以来、自治会やPTAなど、地域ぐるみの活動が広がり、着実に安心・安全なまちづくりへの歩みを進めています。

「見せる警戒」で地域を守る

事件や事故の予防は、SC活動の柱の一つです。市内では217ある自治会を中心とした地域のパトロールをはじめ、青色回転灯搭載車(青パト)による見回り、不審者から身を守る緊急避難場所「かけこみポイント」の普及など、見せる警戒を積極的に展開。その効果として、平成20年に4224件あった刑法犯認知件数は28年には2



市内では115台の青パトが巡回し地域の防犯意識を強化



広がる見守り活動

市内では交通安全対策にも力を入れていきます。小・中学校の登下校時間に合わせた子どもの見守りや子どもを守る自転車用ヘルメットの普及など

382件にまで減少しました。南毛利地区にある厚木中央高校では、ボランティアの生徒たちが毎週3回、地区内の小・中学校の周辺などを巡回しています。参加するのは「お世話になっている地域に貢献したい」「小さい頃に見守ってもらった感謝の気持ちを子どもたちに伝えたい」など、さまざまな思いを持った30人の生徒たち。活動を通じて地域や警察と交流を深める貴重な経験の場になっています。地元(68・温水)は「彼らのような若者に地域の防犯活動を担ってもらえて頼もしい」と期待を寄せています。3年生の成井啓さん(17・愛甲西)は「自分たちの活動で同世代の防犯意識を高めたい」と意気込みます。SCの精神は、若い世代にまでつなげていっています。

全国有数の安心・安全なまちへ

SCへの取り組みが地域の皆さんにより身近な存在として広がりを見せる一方、市もこの10年間で安心・安全なまちづくりを積極的に進めてきました。20年5月にSCの認証取得を宣言すると、22年11月には国内で3番目に国際認証を取得。世界基準の安心・安全なまちづくりを進めていることが認められました。23年から重点的に防犯活動に取り組み安心・安全SC推進地区を指定。これまでに市内143箇所の地域と連携して防犯対策を積極的に進めてきました。活動は教育環境にも波及し、清水小学校と陸合中学校では、学校版SCといわれる「インター

を全市を挙げて実施。地域や警察、行政などが一体となって活動を続けた結果、20年に1751件だった交通事故は、28年に952件まで減少しました。市内で広がる見守り活動に取り組みの足音は、多くが自治会やPTAなどの団体です。そんな中、妻田小に程近い交差点では、10年以上も前から自主的に見守りを続ける女性がいいます。山田玲子さん(80・妻田南)は、ランドセルを背負う孫を見送りにいったことがきっかけで活動を始めました。交通量が多い交差点を子どもたちだけで渡る状況に危険を感じ、今日まで見守りを続けています。「事故がなくて良かった」と振り返る山田さん。「子どもたちの成長を見届けることが一番の楽しみ」とほほ笑みます。彼女の思いは地域に広がり、今年から地元自治会を上げての取り組みに発展しました。「体力が許す限り続けたい」。笑顔を楽しみに今日も山田さんは交差点で子どもたちを見守ります。



子どもたちが安心して学校に登校できるよう見守りを続ける山田さん



国内3番目・世界223番目に認証を取得



ヘルメットの普及率は90%を超える



日常に潜む危険を発見するトレーニング

一人一人がSOCの担い手

市民の皆さんとの協働による地道な活動の結果、事件や事故を減らすことに成功しましたが、まだ課題は残されています。2年に1度、市民の皆さんにまちづくりへのニーズをお聴きする市民意識調査では、依然として19%の方が駅周辺の治安に不安を感じると回答しています。43・2%だった10年前に比べ大幅に減少しているものの、「夜道で怖い思いをした」「不審者に声を掛けられた」などの声もあり、誰もが安心できる状況には至っていません。今後さらなる取り組みが必要で、SCの実現・維持は、まち全体で取り組むものですが、その前に、各々が事故やけがを防ぐ意識を持つことが肝心です。日頃から危険な場所や行動を避け、地域のSC活動に参加するなど、一人一人の心掛けをきっかけに、安心・安全の輪を広げていきたいと思います。



防犯パトロールに励む厚木中央高校の生徒たち



市役所の西側側面の壁には認証マークが表示されている

課題解決には一人一人の参加が鍵
一般社団法人 日本セーフコミュニティ 推進機構 代表理事 白石 陽子 さん(48)

国内でSCに取り組み始めて10年以上が経過したことで、全国的に安心・安全の意識が根付いてきたと思います。次のステップは、具体的に各地域が抱える課題の解決です。それには、地域のことを良く知る住民の皆さん一人一人の参加が必要になりますが、いかに活動に対して興味を持ってもらうかが鍵になります。

国内初のSC認証都市である京都府亀岡市では、活動への参加者を増やそうと、ドライブレコーダーを使った地域の見守りを始めました。車の運転が防犯対策につながるため、気軽に参加できるというメリットがあります。犯罪や事故が起きた際に証拠として活用も可能で、実際に痴漢容疑者の検挙に大きく貢献しています。

亀岡市を参考に、皆さんの生活の中で、SCに役立ちそうなことを考えながら活動に参加すると面白いかもしれません。その発想を地域で具現化して、課題の解決につなげてほしいです。

今日から始めよう、SC活動

普段の何気ない心掛けが安心・安全につながります。まずは身近なことから始めてみましょう。

- 1 登下校時に、散歩や家の回りを清掃**
学校の登下校の時間に、近所の散歩や家の回りを掃除することで、子どもを見守る目が増え、防犯効果があります
- 2 かけこみポイントに登録**
子どもたちを危険から守るために、緊急避難場所の登録をしましょう
- 3 ケータイSOSネットを活用**
メールマガジンを登録して防犯・防災情報をチェックしましょう

防犯への理解を深める 安心・安全なまちづくり研修会 (入場無料)

市内で日頃から防犯活動に取り組んでいる団体の活動事例を発表します。

【日時】11月15日 13時30分～15時
【場所】文化会館 382人
【定員】382人
【当日】直接会場へ。先着順。

世界の安心・安全を学ぼう 第9回 アジア地域セーフコミュニティ会議

アジア地域を中心に安心・安全に関する研究成果を発表する国際会議を開催します。

【日時】平成30年11月12日～15日
【場所】アミューあつぎほか
【内容】SCや安心・安全に関する先進事例について講演や活動成果の報告
【定員】平成30年2月から申し込み開始。詳しくは市ホームページをご覧ください。

英語で外国人をおもてなし 「あつぎキッズガイドプロジェクト」始動



英語でALTや参加者がコミュニケーション

ニュージージーランドのホストタウンである市は、3年後のオリンピックで市を訪れる選手やサポーターを支援する子どもたちを育てようと、「AKG（あつぎキッズガイド）プロジェクト」を始めました。9月23日、アミューあつぎで開催したキックオフイベントでは、英語での自己紹介やジェスチャーゲーム、バンダナに絵を描くワークショップなどを実施。参加した23人の子どもたちは、学校で習う授業とは違う体験学習を楽しみました。

プロジェクトでは、平成30年2月までに6日間のプログラムを実施し、市内の子どもたち72人が参加する予定です。今後は、ものづくりや調理体験などに英会話のみで取り組み、実践的な英語力を養います。

保護者と市長・教育長が意見を交換 子育てコミュニティトーク開催中

9月22日、子育て中の保護者が市長や教育長らと子育てについて意見を交換する「子育てコミュニティトーク」をあつぎ市民交流プラザで実施しました。

トークは、小林市長が掲げる「現地対話主義」の一環で、保護者の皆さんから直接話を聴き、子育てや教育の施策に生かしていこうと、毎年開催しています。本年度は、「地域での子育て支援」や「子どもを守るための家庭での取り組み」をテーマに、11月22日まで7回実施します。

初日となったこの日は、子どもと保護者が一緒に地域と関わっていくことの重要性や子どもが携帯電話を持つ際の家庭での状況・約束事について意見が交わされました。



保護者の生の声を直接聴き、施策に反映



移動販売車で買い物を支援 JAあつぎと協定を締結

10月4日、県内初となる移動販売車を用いた買い物支援に関する協定を締結しました。

協定は、移動販売車を使って市内の農畜産物などを販売する組合に対し、市が販売場所として公共施設6カ所を無償で提供するという内容です。これまで市民の皆さんから要望の多かった買い物の移動手段確保の課題解決や地産地消の推進につなげます。

販売車の運行は11月6日からスタート。清川村を含めた8コース、22カ所を週4日回り、市内産の新鮮な食材を届けます。



大貫盛雄組合長（左）と農業と福祉の連携を約束



移動販売車「ゆめみちゃん号」

カラフルな壁画が登場 市民団体らが壁画を制作

10月15日、長坂南公園の東側に約100坪の巨大な壁画が登場しました。壁画の制作は、市とまちの環境美化に取り組み市民団体「エコアップ・あつぎ」による市民協働事業の一環で、東京工芸大学の学生の協力を得て実現。雨の中、地域の子どもたちや自治会の会員など約100人が集まり、壁に地域の四季を描きました。

参加者からは「落書きをしようとしている人が絵を見てやめてくれれば」「大きな絵を描けて楽しかった」などの声が上がっていました。エコアップ・あつぎの井寛明さん（53・林）は「描いている姿や完成した壁画を見た人にも落書き防止の取り組みが広がれば」と話しました。

市では、落書き防止マニュアルを作成するなど、落書きを許さない意識を市全体に広げていきます。



壁画は小学生の絵を基にデザインした

ATSUGI X NEW ZEALAND ホストタウン通信



NZフェアには鮎まつりで好評だったラムチョップも登場

Feel of NZ～食べて、見て、感じるNew Zealand～

11月の1カ月間、市内の企業や店舗の方々にご協力をいただき、市民の皆さんにより一層NZに親しみを感じてもらうための交流事業を実施します。

日程	内容	会場
毎週水・土・日曜、祝日	NZの星空がテーマのプラネタリウム投影	子ども科学館
11月1日～30日	NZの料理やワインなどを提供、ラグビー-NZ代表「ALL BLACKS」グッズの特別販売	市内各店舗
	NZに関する書籍や絵本の展示	中央図書館
11月9日～21日	NZ在住の写真家・中村太一さんの写真展	あつぎアートギャラリー
11月11・12日	あつぎNZフェア（フードやお菓子の販売）	厚木中央公園
11月11日～12月1日	NZ映画の特別上映会	映画.comシネマ
11月13日	NZの食材を使った特別給食	市内小学校
11月14・22日	NZ企業による食育講座	市内一部小学校
11月下旬	NZ大使館などによる国際理解講座	市内中学校

※学校での交流事業は、一般の方は参加できません。

2020年東京オリンピック・パラリンピック（東京五輪）に向けて、ホストタウンとなったニュージージーランドとの交流事業などを紹介します。

子育て世代のママさんやパパさんから、子育てに関する課題や意見を直接伺いする「子育てコミュニティトーク」を9月から開催しています。

市長就任から間もない平成19年度から約90回にわたり実施してきました。保護者から寄せられる切実な声は、小児医療費の助成拡充や子ども用自転車ヘルメットの購入費補助などにつながっています。

先日、小・中学校を訪問してきました。教育長や教育委員と意見を交わす「総合教育会議」で、教員の多忙化が話し合われているからです。もちろん、ちょっと見ただけで理解できないのは承知の上ですが、特別支援教育介助員や元氣アップアシスタント、学力ステップアップ支援員、給食費公費化などの効果について現場の声を聴いてきました。

学校では生き生きと活動する子どもたち、授業や部活動、事務作業に奮闘する先生たちの姿を目の当たりにしました。厚木市が掲げる「子育て・教育環境日本一」には、学校や地域、家庭の信頼関係と連携が不可欠です。これらをしっかりとつなぎ、日本一にふさわしい仕組みを考えてまいります。



東名中でサッカー部の顧問や生徒たちと

先日、小・中学校を訪問してきました。教育長や教育委員と意見を交わす「総合教育会議」で、教員の多忙化が話し合われているからです。もちろん、ちょっと見ただけで理解できないのは承知の上ですが、特別支援教育介助員や元氣アップアシスタント、学力ステップアップ支援員、給食費公費化などの効果について現場の声を聴いてきました。

タウンガイド

11月							12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4					1	2	
5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9
12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16
19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23
26	27	28	29	30			24	25	26	27	28	29	30
							31						

マイタウンクラブ
 ①印の番号で、ウェブ上から詳しい情報を確認できます。「①」
 と記されたものは、申し込みも
 できます。
 ②=申し込み ③=問い合わせ
 ④=電話番号 ⑤=ファクス番号
 ⑥=Eメール ⑦=市ホームページ
 ⑧=GENKI ポイント対象事業

ふれあいデー ～ななさわアウトドアフェス～

11月12日、10時～15時。七沢自然ふれあいセンター。ピザ作り、焼きマッシュマロ、草木染、丸太切り、ミニ縁日、模擬店など。入場無料。
 ②当日直接会場へ。③七沢自然ふれあいセンター ☎248-3500。④1

第15回あつぎスポーツ レクリエーションフェスティバル

11月25日、10時～15時(雨天時は屋内種目のみ)。萩野運動公園。ソフトテニス、テニス、ターゲット・バードゴルフ、ペタンク、ティーボール、民踊、卓球、ニュースポーツ、バドミントン、体力測定。総合型地域スポーツクラブ「SCD厚木」が幼児・小学生走り方教室、幼児サッカー教室を同時開催。スタンプラリー参加でプレゼントあり。無料。室内履きをお持ちください。②当日直接会場へ。③スポーツ推進課 ☎225-2531。④10



厚木の奥入瀬・谷太郎川 渓谷の紅葉ハイキング

11月14日(予備日16日)、9時30分～14時30分。観光ガイドと谷太郎川渓谷、二の足林道を歩く。定員50人。500円(資料代、保険料)。温泉入浴希望者は別途500円。
 ②11月1日～7日に東丹沢七沢観光案内所 ☎248-1102へ。先着順。③162618 ④1

あそぼう!まなぼう! まめの木タイム

11月8日、11時～12時。愛甲児童館。子どもの発達を促す遊びを保育士から学ぶ。無料。②当日直接会場へ(駐車場はありません)。③療育相談センターまめの木 ☎225-2252。④1

斎場施設見学会

11月12日、10時30分～12時。市斎場。施設の見学と葬儀の説明。定員30人。無料。②11月1日～11日に市斎場 ☎281-8595へ。先着順。④1

アミューあつぎ ハンドメイドマルシェ

11月25日、10時～15時。アミューあつぎ。約20店舗によるアクセサリーや洋服、雑貨などの手作りの販売、ワークショップなど。③商業にぎわい課 ☎225-2834。④1

市民ふれあいマーケット

11月19日(雨天中止)、9時～13時30分。厚木中央公園。日用雑貨や衣料品などの不用品を130店舗が販売。③環境政策課 ☎225-2749。④1

映画上映・講演会 「公立夜間中学って知ってますか」

11月19日、①9時40分～12時30分②13時40分～16時30分。アミューあつぎ。あつぎえんぴつの会による、映画「こんばんは」の上映と前文部科学事務次官・前川喜平さんの講演。定員100人。無料。②当日①9時10分②13時10分から整理券を配布。先着順。③市民協働推進課 ☎225-2141。④1

応急手当普通救命講習会

12月9日、9時～12時。消防本部。応急手当の必要性、心肺蘇生法、自動体外式除細動器(AED)の取り扱いなどを学ぶ。市内在住在勤在学の中学生以上30人。無料。②11月27日までに救急救命課 ☎223-9365へ。抽選。③162842 ④10

日本赤十字救急員養成講習会

12月3・9・10日(全3回)、9時15分～17時15分。保健福祉センター。心肺蘇生法や自動体外式除細動器(AED)の取り扱いなどを学ぶ。検定合格者に認定証を交付。15歳以上で全日程に参加できる方30人(市内在住在勤在学の方優

先)。3200円。②往復ハガキに講習会名(継続研修の方は有効期限・認定証番号を記載)、〒住所、氏名(ふりがな)、性別、生年月日、電話番号、市外の方は勤務先または学校名を書き、11月24日(必着)までに〒243-8511 福祉総務課 ☎225-2200へ。抽選。③172476 ④1

11月9日～15日は 秋の火災予防運動

「火の用心 ことばを形に 習慣に」をスローガンに、秋の火災予防運動を実施します。

《啓発活動》消防署や消防団の消防車による巡回や立入検査を実施《サイレン吹鳴》11月9日、7時。火災とお間違えないようご注意ください。③予防課 ☎223-9371。

市立病院看護職員を募集

《試験日》12月10日《対象》昭和58年4月2日以降に生まれた方で①看護師の免許を持つ②平成30年実施の看護師国家試験で看護師免許を取得見込みのいずれかに該当する方35人。③市立病院、市役所本庁舎、本厚木・愛甲石田駅連絡所にある申込書(市立病院ホームページからダウンロード可)に必要事項を書き、直接または郵送で、11月29日(消印有効)までに〒243-8588 水引1-16-36 病院総務課 ☎221-1570へ。

年末調整等に関する説明会

11月16日、①11時15分～12時30分②13時45分～16時15分。文化会館。①平成31年10月から実施する消費税の軽減税率制度②年末調整や法定調書・給与支払報告書の作成などについての説明会。事業所や事業主の方。無料。②当日直接会場へ。③消費税・年末調整・法定調書=厚木税務署 ☎221-3261。給与支払報告書=市民税課 ☎225-2011。④1

第11回議会報告会・ 市民と議会の意見交換会

11月17日、19時～20時30分。相川公民館。平成28年度決算(9月定例会議)の審議概要の報告、「厚木のまちづくりについて」がテーマの意見交換。②当日直接会場へ。③議会総務課 ☎225-2701。④1

教育委員会点検・評価 報告書を作成

教育委員会の取り組みに対する学識経験者と公募市民からの意見や助言をまとめた「点検・評価報告書」を作成しました。対象は、実施事業を定める教育充実プランに位

全国瞬時警報システム (J-ALERT) 全国一斉情報伝達訓練

J-ALERTの情報伝達体制確認のため、防災行政無線で試験放送を実施します。

《日時》11月14日 11時～
 気象状況により中止になる場合があります。

③危機管理課 ☎225-2190

置付けた平成28年度の主要64事業です。報告書は④や市政情報コーナーでご覧いただけます。⑤教育総務課 ☎225-2663。

オストメイト社会生活訓練事業相談会

11月12日、13時30分～16時30分。相模原市大野南公民館。皮膚・排泄ケア認定看護師の講演、グループ懇談、個別相談、装具の展示など。人工肛門・ぼうこう保有者とその家族や関係者70人。無料。②当日直接会場へ。③日本オストミー協会神奈川支部 ☎080-5027-5780。

女性の人権ホットライン強化週間

パートナーからの暴力などの相談を受け付ける「女性の人権ホットライン」強化週間を実施します。相談は、人権擁護委員や法務局職員が電話で対応し、秘密は厳守します。

《日時》11月13日～19日、8時30分～19時(土・日曜は10時～17時)
 《相談ダイヤル》☎0570-070-810
 《費用》無料。③横浜地方方法務局人権擁護課 ☎045-641-7926。

自動運転フォーラム

11月25日、13時～16時30分。慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス。同大学教授による基調講演、企業によるパネルディスカッション、自動運転車の展示・試乗(抽選)。②11月20日までに県ホームページから。③県産業振興課 ☎045-210-5652。

教育委員会委員の任命

市教育委員会は、教育委員会委員の任期満了に伴い、10月16日付けで、新たに森厚子さん(58)を教育委員会委員に任命しました。森厚子氏。③教育総務課 ☎225-2600。



【訂正】10月15日号の1面に掲載した「あつぎ七沢森のまつり」の開催時間は9時30分～15時でした。11月2日の前夜祭は開催しません。おわびして訂正します。

インターネット モニターからの 意見を紹介



厚木市 インターネットモニター 検索

10月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆親子で触れ合える時間は本当に貴重なので、大切にしたいと思った／20代女性◆スポーツを始めたいと思っても、ジムへ行くのはハードルが高いので「ふらっとスポーツ」はとても良い企画／30代女性◆予防接種を受けることがまん延を防ぐことにもつながるとい話がとてもためになった／60代男性◆他の自治会が活動している様子を知ることは、自分の地域の参考にもなって良い／70代以上男性

編集後記

今回の特集では、来年で10年を迎えるセーフコミュニティ(SC)の活動について取り上げました。地域で取り組む子どもたちの見守り活動や防犯パトロールに同行したところ、元気にあいさつを返す子どもや大人たちの姿がとても印象的でした。ご近所同士の付き合いが希薄になっているとニュースでよく耳にする中で、SCの活動が住民同士のコミュニケーションを深める機会としても、地域に根付いているのだと実感しました。佐藤

あつぎ国際人道芸

11月11日(土)・12日(日) 11時～18時

百花繚乱 世界八カ国堂々集結

ジャグリングに手品、ダンス、パントマイム。多彩なパフォーマーたちが集い、街中がステージに早変わり。この2日間でしか味わえない感動や不思議を体感しませんか。 固商業にぎわい課 ☎225-2834

同時開催イベント

- ◆あつぎグルメフェア (MAP①)
- ◆まち元気物産フェア (MAP②)
- ◆第36回あつぎ技能祭 (MAP②)
- ◆厚木商工会議所女性会ちんどん屋&工作教室&おりがみ教室 (MAP②)
- ◆南口ホコ天まつり (11日のみ、MAP③)
- ◆第8回あつぎ消防団ふれあい広場 (12日のみ、MAP④)
- ◆スーパーキッズランド (MAP⑤)
- ◆CHIKA フェス (MAP⑥地下)

MAP

物産エリア
大道芸演技ポイント
インフォメーション
あゆこちゃんグッズ販売場所

飲食エリア
キッズエリア
キッズエリアには似顔絵やフェースペイントコーナーがあるよ

自然歳時記

アキアカネ

トンボ科

全長32～46mmほど。黄色だった体は成熟すると腹部が朱色になる。雄は雌よりもより赤くなる。この時期、水田や池沼、湿地などを見つけ産卵する。下川入の水辺で見つけた。 写真・文/吉田文雄

星空の美しい夜明けは辺りの空気が冷え込むが、日が昇ると一変する。どこからともなくアキアカネが次々と現れてきた。石の上は体が温まりやすいのか、腹ばいのまま死んだように動かない。

水たまりに差し込む光の中に、キラリとトンボの羽が踊った。そっと近づくと、連結したアキアカネたちが思い思いに飛び交い、人の気配も気にせずわれを忘れ、水や泥の中に産卵していた。

アキアカネは暑い夏を山で過ごし、秋に里山で産卵活動を行うが、産卵場所の減少や農薬などの影響で以前よりその数は減少している。トンボや水生昆虫の生息する水環境を大切にしたい。

厚木市の人口 (10月1日現在) **世帯数** 9万8145世帯 (前月比44世帯増) **人口** 22万5693人 (前月比23人減) 男11万6655人・女10万9038人